

# IT利活用分野について (自動車分野)

経済産業省

製造産業局 自動車課

# 検討項目について（自動車分野）

- 自動車分野についても、IT分野と同様に、以下の事項について検討を行う。
- なお、教育手法や実施機関の要件など、制度共通部分についてはIT分野と同じとする

検討項目		検討事項	共通事項
対象範囲	自動車分野の範囲（＝モデルベース開発）	－	
認定の基準・要件	講座のレベル	今回検討	✓
	教育内容・教育方法		✓
	事後評価		✓
実施機関	実施機関の要件		✓
認定の仕組み	審査方法	今回検討	✓
	認定の有効期間		✓
	認定の取消		✓

## 【検討事項2】講座のレベルについて

- 講座のレベルは、IT分野と同様に、第4次産業革命を牽引するといった目指すべき人材像に鑑み、高い技術を持った人材や、新たな技術を使いこなし改善・改良につなげられることを目的とする講座とするため、ITSSレベル4と同等のETSSレベル4（ETSS-JMAAB ミドルレベル）相当を目指す講座としてはどうか。

なお、自動車のモデルベース開発用にETSSを改良して作成した「ETSS-JMAAB」では、7段階の基準を3段階（ハイ、ミドル、エントリ）としているが、講座のレベルとして求めるものはミドルレベルのうちETSSのレベル4相当を目指すものを対象とする。

### ETSS JMAAB（MBDエンジニア）

ITSS / ETSS（7段階）

ETSS-JMAAB（3段階）

レベル	定義
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内外にまたがり、テクノロジーやメソドロジー、ビジネス変革をリードするレベル</li> <li>市場への影響力がある先進的なサービスやプロダクトの創出をリードした経験と実績を持つ世界で通用するプレーヤ</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内外にまたがり、テクノロジーやメソドロジー、ビジネス変革をリードするレベル</li> <li>社内だけでなく市場から見ても、プロフェッショナルとして認められる経験と実績を持つ国内のハイエンドプレーヤ</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内において、テクノロジーやメソドロジー、ビジネス変革をリードするレベル</li> <li>社内で認められるハイエンドプレーヤ</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つまたは複数の専門を獲得したプロフェッショナルとして、専門スキルを駆使し、業務上の課題の発見と解決をリードするレベル</li> <li>プロフェッショナルとして求められる、経験の知識化とその応用（後進育成）に貢献する</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>要求された作業を全く独力で遂行するレベル</li> <li>専門を持つプロフェッショナルを目指し、必要となる応用的知識・技能を有する</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>要求された作業について、上位者の指導の下、その一部を独力で遂行するレベル</li> <li>プロフェッショナルに向けて必要となる基本的知識・技能を有する</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>要求された作業について、上位者の指導を受けて遂行するレベル</li> <li>プロフェッショナルに向けて必要となる基本的知識・技能を有する</li> </ul>

レベル	定義
ハイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内外の他の職種との調整を実施でき、当該職種に係るテクノロジーやメソドロジー、ビジネスをリードするレベル。</li> <li>さらに、社内の人材投資戦略に関して策定・実行に大きく貢献することが求められる</li> </ul>
ミドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内外の他の職種の内容を把握し、自らのスキルを駆使することによって、業務上の課題の発見・解決を行うことができるレベル。</li> <li>また、下位のレベルの育成に積極的に貢献することが求められる。</li> </ul>
エントリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該職種の上位レベル指導の下で、業務上における課題の整理と解決を行うことができるレベル</li> </ul>

## 【検討事項 2】審査方法（仕組み）について

- 認定にあたっては、中立的・客観的な観点や、真に産業界のニーズに沿ったものであるかどうかといった観点から、外部の有識者による検討を経ることとしてはどうか。
- また、講座のレベルや、目標とする人材とカリキュラムとの整合性など専門的な観点からも、申請内容について詳細に確認する必要があることから、こうした専門的な観点については、必要に応じて、その分野における高度な知見を有する機関等の協力を得ることとしてはどうか。

### 認定審査のフロー（ITの場合の例）



# <参考> JMAAB (Japan MBD Automotive Advisory Board)について

## 設立目的

JMAABは、日本の自動車業界のモデルベース開発（MBD）の推進と、シミュレーションソフトウェアのMATLAB/Simulinkベースの設計・開発環境をより発展させるために、発起人を中心として設立されたユーザー会である。企業の壁を越えて「ツールでは協調、製品で競争」することを基本理念としている。JMAABはオープンな団体として存在し、いかなる企業や団体、個人の活動や、またはソフトウェアの開発・販売等を阻害するものではない。

### (1) 発起人

トヨタ自動車株式会社  
日産自動車株式会社  
株式会社本田技術研究所  
マツダ株式会社

### (2) ボードメンバー 5名

トヨタ自動車株式会社  
日立オートモティブシステムズ株式会社  
マツダ株式会社  
株式会社ミツバ  
株式会社小松製作所

### (3) コアメンバー 30社

#### ● コアメンバー (30社) 順不同

トヨタ自動車株式会社	日立オートモティブシステムズ株式会社
日産自動車株式会社	三菱電機株式会社
株式会社 本田技術研究所	アイシン・エイ・ダブル株式会社
マツダ株式会社	いすゞ自動車株式会社
アイシン精機株式会社	三菱自動車工業株式会社
株式会社 アドヴィックス	三菱ふそうトラック・バス株式会社
スズキ株式会社	株式会社 ミツバ
ヤマハ発動機株式会社	株式会社小松製作所
株式会社SUBARU	トヨタテクニカルデバイス・ソリューション株式会社
オムロンオートモーティブエレクトロニクス株式会社	ダイハツ工業株式会社
カルソニックカンセイ株式会社	株式会社両毛システムズ
富士通テン株式会社	キャタピラー・ジャパン合同会社
アイシン・コムグループ株式会社	株式会社ケーヒン
シヤトコ株式会社	株式会社ネクスティ エレクトロニクス
株式会社 デンソー	パナソニック株式会社

JMAAB組織図

